

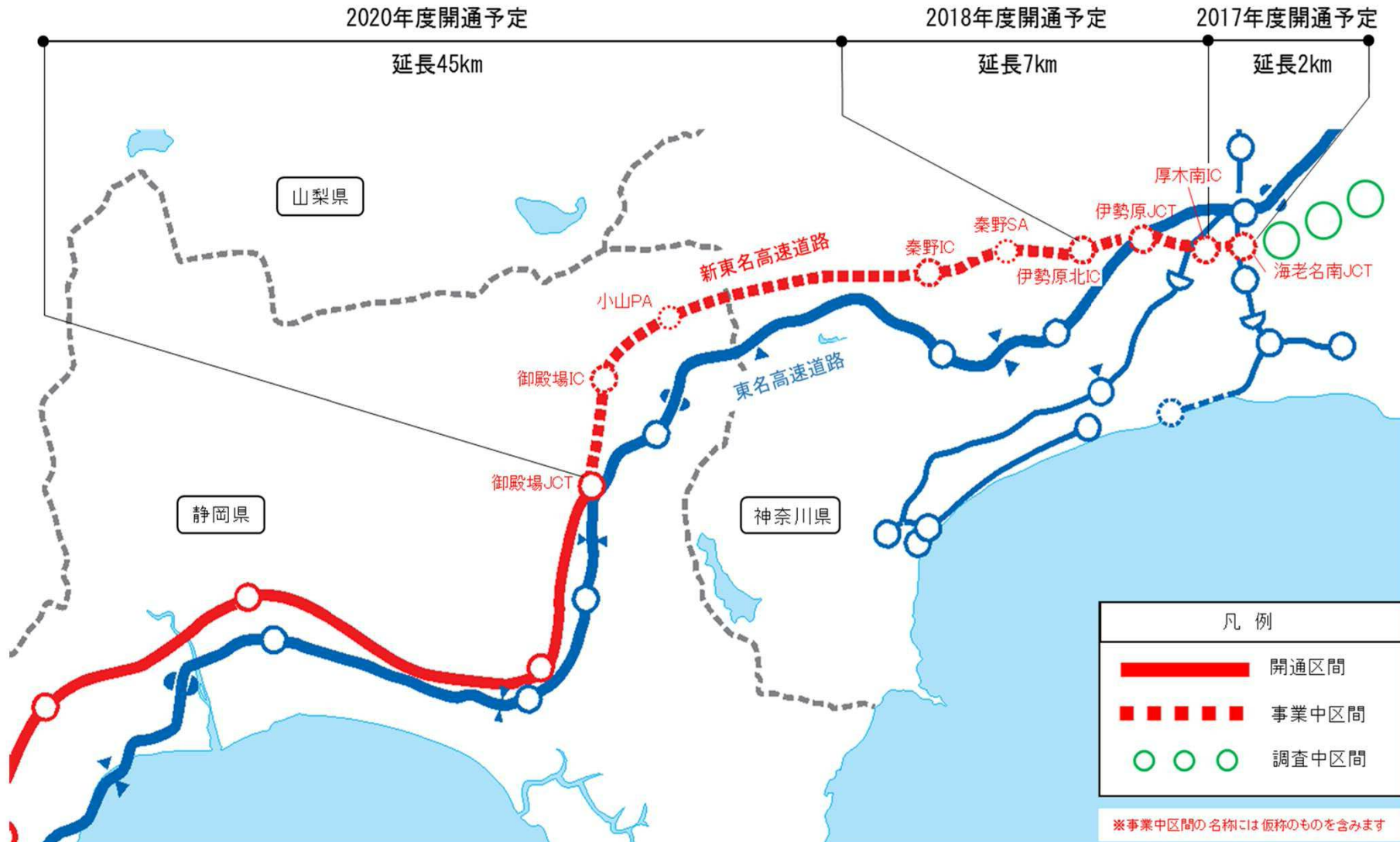
E1A新東名高速道路(海老名南JCT～御殿場JCT間)連絡調整会議  
(第1回)

説明資料

2017年8月9日

# (1) E1A新東名高速道路の概要について

- 事業中区間は、海老名南JCT～御殿場JCT間で全延長は53.3km
- 開通目標年度は、海老名南JCT～厚木南IC間は2017年度、厚木南IC～伊勢原北IC間は2018年度、伊勢原北IC～御殿場JCT間は2020年度
- 用地は一部箇所を除き概ね取得済みで、用地取得や埋蔵文化財調査等が完了した箇所から順次工事に着手
- 路線の特徴は全延長53.3kmのうちトンネル区間が約4割、橋梁区間が約4割と構造物比率が高い路線。特に山北町や松田町域では急峻な山岳地形の中で大規模な橋梁やトンネルを有するなかで工事を進めている



## (2) E1A新東名高速道路の進捗状況と課題について

### ①海老名南JCT～厚木南IC間

■今年度内の開通に向け舗装・設備工事に着手

<位置図>



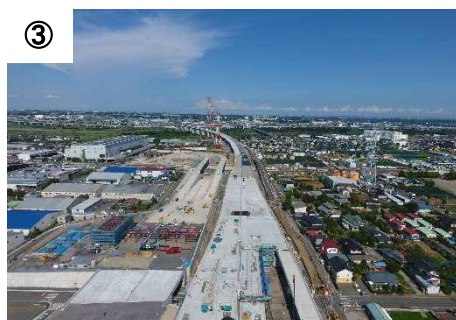
※事業中区間の名称には仮称のものを含みます



① 海老名南JCTの整備状況  
(2017年7月撮影)



② 厚木南ICの整備状況  
(2017年7月撮影)



③ 厚木南ICの整備状況  
(2017年7月撮影)

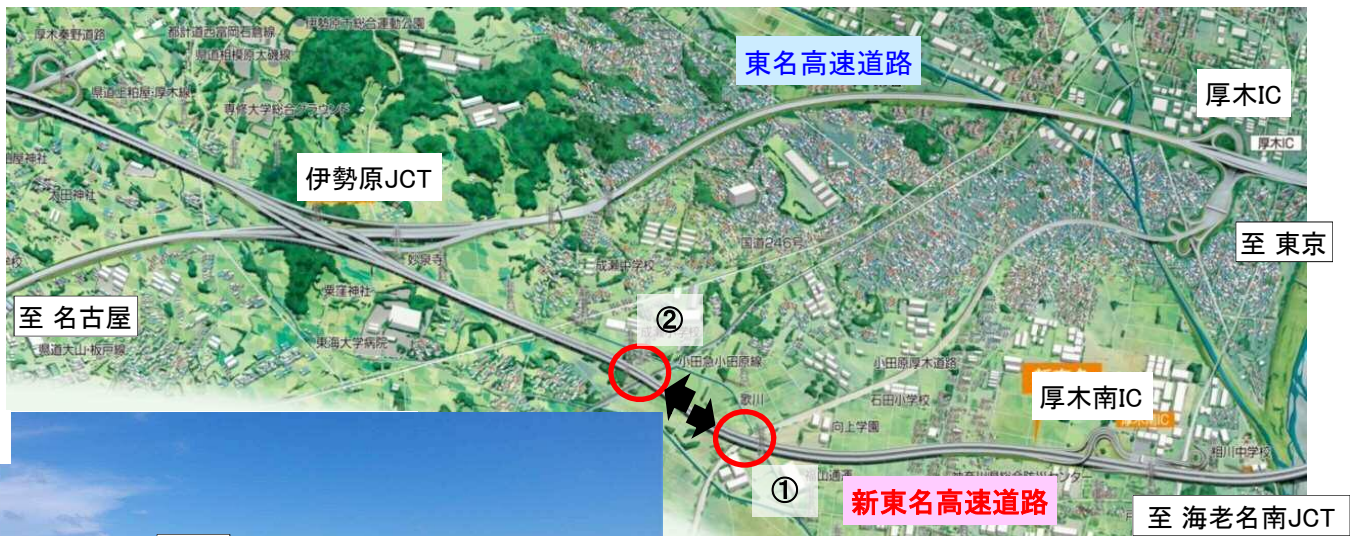


④ 試験舗装の状況  
(2017年6月撮影)

## ②厚木南IC～伊勢原北IC間

■幹線道路や鉄道を横断して架設する橋梁が複数あることから、道路交通への影響や安全に十分配慮して進める必要がある

### <位置図>



※事業中区間の名称には仮称のものを含まます



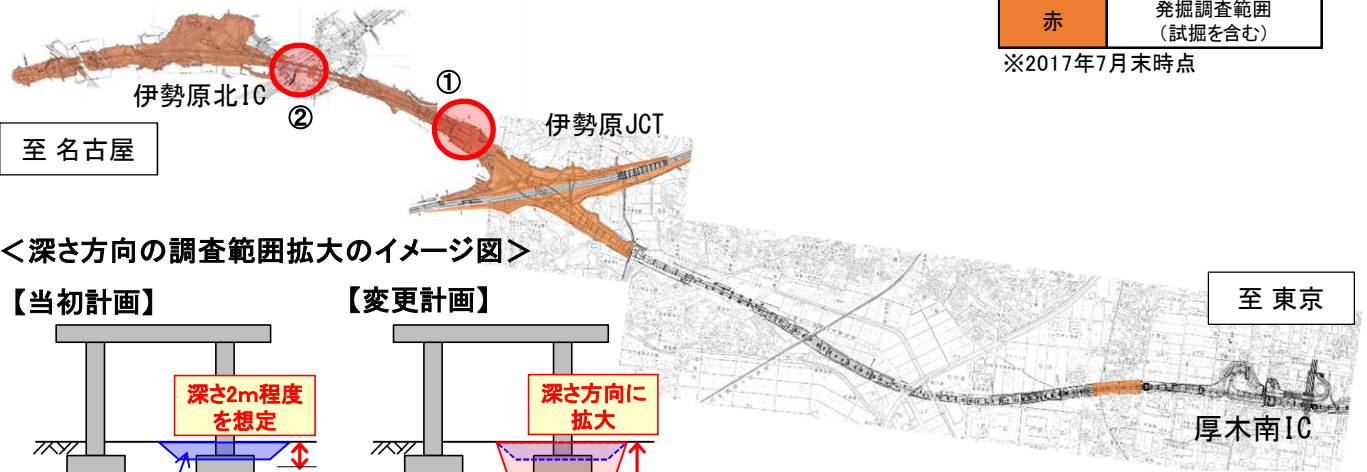
新東名と小田原厚木道路との交差箇所の整備状況  
(2017年7月撮影)



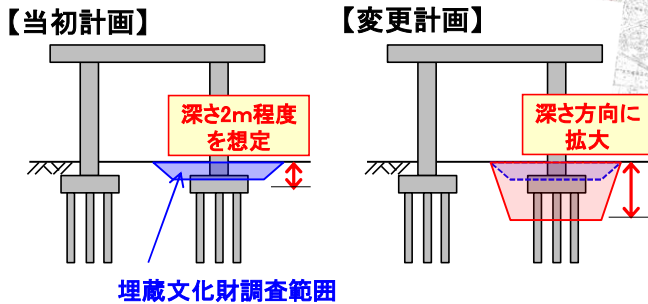
新東名と小田急電鉄との交差箇所の整備状況  
(2017年7月撮影)

■埋蔵文化財の調査において、旧石器時代の遺跡が確認されるなど、深さ方向に調査範囲が拡大

＜埋蔵文化財調査範囲＞

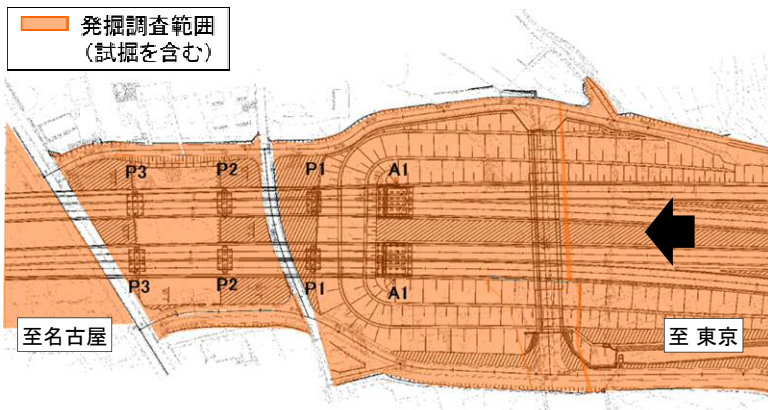


＜深さ方向の調査範囲拡大のイメージ図＞



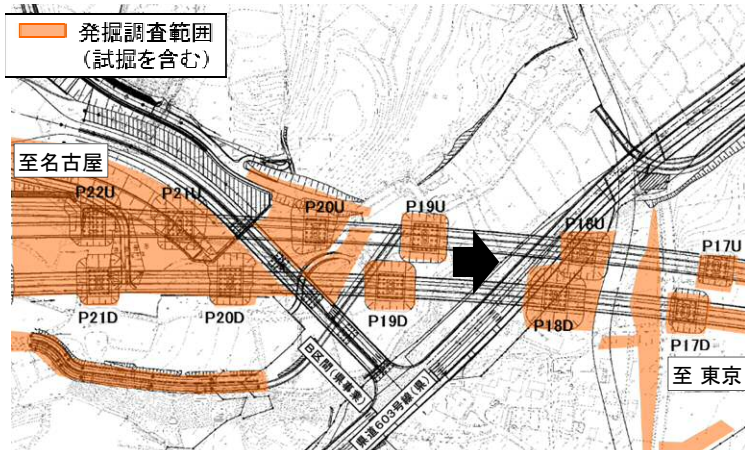
※事業中区間の名称には仮称のものを含みます

＜①向畑高架橋付近の整備状況＞



向畑高架橋付近の整備状況 (2017年7月撮影)

＜②秋山高架橋付近の整備状況＞



秋山高架橋付近の整備状況 (2017年7月撮影)

### ③伊勢原北IC～御殿場JCT間

■用地取得の難航、工専用進入路の確保難航に伴う工事着手の遅延など、厳しい条件の中で膨大な量の埋蔵文化財調査や工事を進めている



※事業中区間の名称には仮称のものを含みます



秦野SA(仮称)の整備状況  
(2017年7月撮影)



松田町域中津川工専用進入路の整備状況  
(2017年7月撮影)



山北町域向原工専用進入路の整備状況  
(2017年7月撮影)

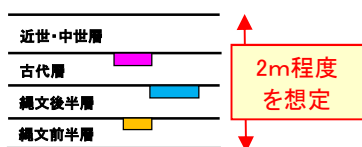


御殿場JCTの整備状況  
(2017年7月撮影)

## 埋蔵文化財調査の状況

- 厚木南IC ~ 伊勢原北IC間の調査面積は、さがみ縦貫道路と比べ、約4倍の面積※であり、非常に大きい※茅ヶ崎JCT~東京・神奈川県境間の1kmあたりの発掘調査面積比較
- 当該地域では、旧石器時代の遺跡や埋没谷地形が確認されるなど、垂直（深さ）方向に調査範囲が拡大

### 当初想定

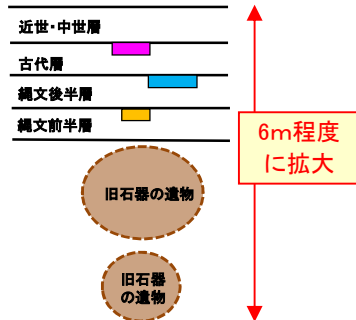


#### 【凡例】

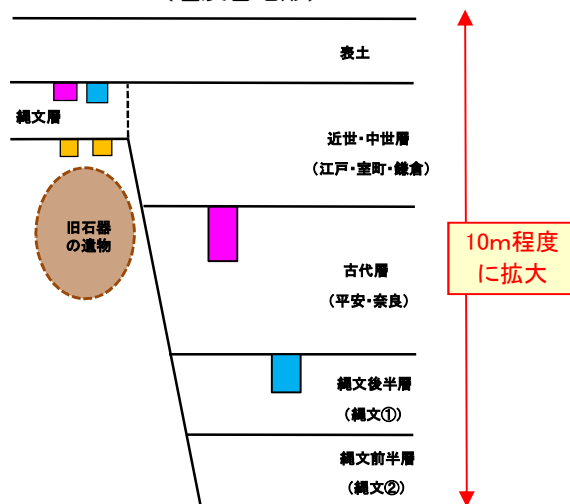
- 中世の遺構 (Medieval structure)
- 古代の遺構 (Ancient structure)
- 縄文の遺構 (Jomon structure)

### 垂直（深さ）方向に調査範囲拡大

(旧石器時代の遺跡)



(埋没谷地形)



### (調査状況写真)



発掘調査状況(旧石器時代)(向畑高架橋A1)



埋没谷地形の状況(西富岡地区)

### 神奈川県の対応

- 発掘作業を優先して行うため、整理作業を先送りし、現場の班数を確保
- かながわ考古学財団の体制強化
  - ・ 県外の財団からの出向受入れ、民間調査組織の活用、調査班編成の効率化などの対応により、できる限り調査期間を短縮
- 現在までに本線に係る主要な埋蔵文化財調査を完了し、引き続き残る調査箇所についても、中日本高速道路(株)と工程調整を図りながら、早期完了に向け鋭意調査を推進